



教職大学院だより

熊本大学大学院教育学研究科 令和6年3月25日発行

2年間の学び・熊本大学教職大学院の魅力

令和5年度末をもって修了する現職派遣教員6人とストレートマスター2人に、熊本大学教職大学院で学ぶ魅力や教職大学院に来てよかったことなどを語ってもらいました。

「これからの教員は『2つの刀』が必要だよ。」 私が大学院へ行くことになった時に、教職大学院を卒業した管理職が言ってくれました。地域と一緒に総合的な学習の時間に取り組んだ時に子供も大人も充実した活動ができたことがきっかけになり、大学院では地域連携に関する研究を行いました。大学院では講師の先生や同僚に恵まれて充実した研究を行うことができ、ライフワークの「体育教育」と「地域連携」という『2つの刀』を手に入れることができました。もし、迷っている人がいるならば、絶対に薦めたいです。「教職大学院行くべきだよ。」
(現職派遣教員：宮部健太)

自分の成長を支えてくれる場所、それが教職大学院です。教職を目指しているけど不安な人、自分の実践について学びを深めたい人、自分の教育のあり方について悩んでいる人など、自分の抱えている課題を、教職大学院で学ぶことを通して解決できること間違いなしです。また、自分の興味のある研究について、思う存分取り組むこともできます。「教職大学院に行こうか悩んでいる人は、絶対行ったほうがいいですよ！」
(現職派遣教員：宮原大輔)

「学びを深めるには振り返りが大切」「協働的な学びは学習効果が高い」などということは書物に書いてありますが、教職大学院での学びはそれを体感することができます。大学院での授業は、協働的な学びやプロジェクト型の学びが中心で、学び方を学ぶことができます。上に挙げた2つだけでなく他にもたくさんことを体感してきました。どんなことが体感できるのかは、大学院に来てからのお・た・の・し・み・です。
(現職派遣教員：清水修)

専門的知識が豊富な大学の先生方、様々な経歴をもつ同じ立場の現職派遣教員、そして未来の教育を担うストレートマスター、いろんな立場の方と対話し、刺激を受け、新たな知見を得ることができます。現場だけでは学べないことがたくさんあります。自分のこれまでの教育観を見つめ直し、さらなるステップアップをするためにも、教職大学院で学ぶ価値は大いにあると思います。
(現職派遣教員：松本秀之)

自分の専門分野に関する学びはもちろん、学校現場における内容や、様々な児童生徒との関わり方などについて、現場で働かれている先生方や同じ境遇の同期と共に学習することができること、それが教職大学院の大きな魅力の一つであると、この2年間で実感しました。また、実践協力校への実習を通して、理論と実践の往還を着実にしながら深い学びに繋げることができました。自分の成長のために大変貴重な経験をすることができたと感じています。
(ストレートマスター：山下玲奈)

教職大学院に来てよかったことは、現職の先生との授業でのディスカッションを通じて、自分の教育観を形成することができたことです。どのような授業をすればいいのか、どのように児童生徒と関わればいいのか、配慮が必要な子に対してどのような支援をしていくのかなど、学部を卒業して働き始めていたら、得られなかった知識や経験が身につきました。非常に有意義な2年間でした。
(ストレートマスター：渡邊愛梨)

私は英語教育について実践研究を行いましたが、教授をはじめ、仲間から様々な助言をいただき、多くのことを学びました。教職大学院での学びを通して、自分自身を俯瞰して見つめ直し、教育観を再確認することができました。「熊大に行って本当に良かった。」と心から思えます。「熊本大学教職大学院で多くの仲間や先生と出会い、自分自身を高め、さらに成長できる！」と自信をもってみなさんにおすすめしたいです。(現職派遣教員：シャラフ明美)

学部での学びとは、違う学びがあります。学部では、同じ専門分野の人と自分たちの専門分野について、主に講義形式で学んでいたと思います。しかし、教職大学院では教諭と養護教諭が、全ての校種と教科が、一緒に学びます。講義形式だけではなく、対話し、共に活動しながら学びを深めます。学校現場で、様々な専門分野でそれぞれの考えをもつ人と連携・協働する際に役立つ多くの学びがあります。
(現職派遣教員：香西里子)